

創 立 昭和32年4月19日
会 長 高 橋 靖
会長エレクト 長 谷 川 博 章
副 会 長 米 田 常 彦
森 川 善 隆
幹 事 豊 田 博 樹
公共イメージ 松 井 大 典



事務局（例会場）

榎原市久米町 652-2 THE KASHIHARA 4F
TEL/0744-28-2801（直通）
FAX/0744-28-2802
E-mail/krc@jeans.ocn.ne.jp
TEL/0744-28-6636（ホテル）

例会日

金 曜 日
12 時 30 分～13 時 30 分

Vol. 63 No. 18 (2019-20)

2019 (令和元) 年 1 月 24 日 発行

1月は、「職業奉仕月間」(Vocational Service Month)です。

第 3048 回例会報告書

2019 (令和元) 年 12 月 20 日

司会 SAA・辻田真海会員
R.song 我等の集い
ソング・リーダー 尾上隆志会員

ゲ ス ト

卓話講師：奈良県立医科大学 MBT 研究所
講師 遊佐敏彦氏

出 席 報 告

正会員 45 名
(12/20) 出席者 34 名 出席率 80%
(12/6 補正) " 33 名 " 80%

ニ コ ニ コ 箱

◎本日卓話の担当です。よろしくお願いします。
……………山川 賢会員
◎入会お祝い
野阪 洋会員 (50年)

会 長 挨 拶

○皆様こんにちは。60 数年という歴史の中で長きにわたって関わるということは、盛り上がったこと、辛いこと、いろいろなことがあったと思う。心から敬服するとともに、今改めてお話を伺うと本当に寂しく思う。これからの榎原 RC が長く在り、会員皆が気を引き続けることが、クラブが盛り上がる一つの糧になるのではないかと思う。改めて自身の手綱を締めて、クラブ活動に、与えられた担いを全うする所存だ。皆様のご協力とアドバイスとご尽力を改めてお願い申し上げる。本日もよろしくお願いしたい。



【野阪 洋会員へ、在籍 50 周年お祝い品の贈呈】

突然ですが、「老兵は死なず、ただ去るのみ」という有名な言葉がある。私はこの 12 月で 86 歳と 6 ヵ月、ロータリー在籍 50 年になった。ただ、目は 1.5、体年齢はだいたい 58 歳となっている。命はいつまであるか分からない。最近、定年退職の年齢を引き上げること言われている。私は命がある限り、仕事に邁進したいと思っている。そして元気であれば植物を育成したり、ゴルフをしたり、水泳をしたり、足腰が少し弱れば、囲碁やピアノをしたいと思っている。



さて、今日で退会させて頂く。どうぞチャーターメンバーの意のあるところを心にして、ますます発展して頂くよう祈っている。本当に長い間、ありがとうございました。これをもって退会の挨拶とさせて頂く。ありがとうございました。



幹 事 報 告

(代読：松井大典副幹事)

△次週 12 月 27 日 (金) 及び 1 月 3 日 (金) は休会。
次回の例会は 1 月 10 日 (金) 新年夜間例会となるので、お間違えの無いようよろしくお願いしたい。また、事務局は 12 月 27 日 (金) ～1 月 5 日 (日) まで休局とさせて頂くので、緊急の際は幹事までご連絡

絡をお願いしたい。

△例会変更ほか（詳細は掲示板にて。）

・奈良西 RC

- ①2月13日（木）休会 ※ビジター受付なし。
- ②2月20日（木）移動例会の為、場所変更
- ③2月27日（木）奈良 RC と合同の為、場所変更
※ビジター受付は②③とも当日 17:30～18:00 まで、
奈良ロイヤルホテル1階フロント横にて。

・五條 RC

- 2月12日（水）休会
※ビジター受付は当日 12:00～12:30 まで、南都銀行
五条支店にて。

委員会報告

○プログラム委員会：尾上隆志委員長

・地区大会について

本日、地区大会のご案内をポストインしている。今年度、地区大会は例会扱いとさせて頂いている。出欠の締め切りの関係上、少し早い皆様にご案内をさせて頂く。今年度はバスを用意し、皆様と楽しく地区大会に参加したいと思うので、奮ってご参加頂くようよろしくお願いしたい。

卓 話

担当：山川 賢会員

講師：奈良県立医科大学 MBT 研究所

講師 遊佐敏彦氏



「地域住民・企業とともにあゆむ MBT （医学を基礎とするまちづくり）」

MBT (Medicine-Based Town, 医学を基礎とするまちづくり) の概要は、2018年2月の前回卓話で述べたとおりです。奈良県橿原市の診療所数、病床数、医師数、介護施設はいずれも全国平均より高い一方で、県東南部から橿原市内への住み替えによる人口流入が今後も続くこと予測され、2045年には、2015年から換算して1.3倍も介護需要が高まります。すなわち、橿原市は奈良県内の核となる都市のひとつであり、周辺市町村も含めた、より広域的なまちづくりを考える必要があるといえます。

高取町では、将来的な医療機関誘致に向けた、医療ツーリズムのメニュー開発が検討されています。例え

ば健康度が高まることを期待される農業体験や、農村散策などがあげられます。また、「くすりの町の漢方マルシェ」などの行事を開催し、大和当帰などに代表される生薬の栽培を復活させたり、地域住民とともに、漢方文化をさらに醸成し、観光メニューを拡大するとともに、健康チェックなども行い、健康に対する意識を高めることをめざしています。

地域包括ケアの実現には、医療、介護、住まい、生活支援・介護予防の切れ目のないサービス構築が重要ですが、生活支援・介護予防については現時点では不十分になりがちです。MBTでは、生活支援・介護予防の観点からも地域貢献・社会貢献を行いながら、新しい事業に取り組んでいます。

橿原市今井町において、奈良県立医科大学のゲストハウスの整備が2017年に完了しましたが、ゲストハウスは入退居の頻度が高く、4部屋あるうちの1部屋は、常に空室であることが多いです。そこでこの空室を利用し、地域住民の健康維持・増進のための、医学の知見を活用した健康サービスの提供の場所としても活用しています。

次に、橿原市が整備した貸し町家「まちや館別館」等において、地元の今井地区自治会と共同で、「健康教室」「音楽療法講座」「認知症予防教室」をそれぞれ月1,2回開催しています。

「健康教室」は2018年8月に開始し、以降月2回程度、継続的に開催しています。座位による体操を休憩を挟んで40分程度行うほか、体操前後にはストレスチェック等も行う。2019年12月までに29回開催し、延べ218名が参加しました。出席率参加者の中には、健康教室に参加することで、外出機会や近所づきあいが増え、運動習慣が身についたとされる参加者も多かったです。

こうした活動を検証し、国公立大学医学部が関与しうる活動で、地域包括ケアシステムの構築に効果的なメニューを確立するとともに、活動を橿原市域全体にも広げたいと考えています。

また、「健康教室」などは、開始当初から、自治会との共催にしています。これは、ゆくゆくは自治会が主体となり、自走化していくことで、持続可能な活動にしていくねらいがあるからです。地域のまちづくりを進める上で、実質的に中心的組織となっている自治会との良好な関係を持続させることが重要です。さらには、行政が進める健康福祉政策にかかる各種取り組みとも連携し、独居高齢者や認知症予備軍の住民を把握し参加を促しつつ、関係者とともに見守っていくことも必要であると考えます。場合によっては、地域に住んでいる潜在看護師らを健康教室の相談役として招聘することも考えていきます。健康教室は、地域包括ケアシステムのハブとなり、地域レベルで運動不足を解消し、気軽に楽しく健康の見える化を行い、閉じこもりがちな独居世帯の孤立を防止し、住民同士の出会いやつながり、自助の力を強化しながら、ちょっとした見守りができるコミュニテケアを実現するとともに、多世代コミュニティを醸成することをめざしています。